産山学園便り

夢創造

平成３１年３月９日（土）no.34　文責：上田

▶「卒業生を送る会」の折に縦割り班で描いた卒業生の似顔絵を卒業式会場に掲示しました。

第１回　産山学園 卒業証書授与式

夢を語れる人であれ、
希望を持ち続ける人であれ。

本日、９年生が卒業式を迎えました。１０名の子どもたちが、記念すべき産山学園第１回の卒業生として巣立っていきました。

３月５日（火）には、９年生への特別授業を行い、授業の最後に『本気ですれば、たいていのことはできる。本気ですれば、たいていのことは面白い。本気ですれば、誰かが助けてくれる。』と話しました。私自身が、熊本地震後の学校運営での苦心、ボランティアとして東北を訪ねた経験、宮城から支援のために赴任した先生と今も続く交流など、何事も本気で行動すればたいていのことはでき、面白く、そして誰かが助けてくれるものだと実感したことを話しました。限られた時間での話でしたが、卒業生には人のぬくもりを少しでも感じてもらえたらとの思いでした。

さて、今日の卒業式では、式辞の中で東野義男さんの「夢と人生」ついての、次の言葉を紹介しました。

若者は夢を持て。
夢を実現するための計画を立てよ。
計画に従って努力せよ。
努力は必ず成果をもたらす。
成果のあるところに感動がある。
その感動の先に、次の夢が生まれる。
人生は夢と感動の連続である。

▲　９年生　４月　学園の最上級生に

この言葉の中で述べられる「成果」とは、決して何もせずに得られるものではなく、時には思い通りにならないことも受け入れなくてはならないことも示唆しているように思います。夢を実現するための計画、努力を怠らなければ、成果とともに感動を得る。そして、感動の先に次の夢の実現に向けて進む豊かな人生があるようだと述べています。進学先の高校は違えども、これまでの仲間、そして新たな仲間と共に自分と向き合い夢を実現するための努力を重ねてほしいと願います。